

## 安全管理の世界から患者安全第一の世界へ

日本医療安全学会理事長  
酒井亮二

医療はリスクと戦う不確実な世界。安全管理は医療界では限定的な効果しかなく、過度の強制は医療ファシズムを生み、医療者が委縮する。ために、2012年に英国患者安全庁は解体。安全管理は医療では抑制的に行使すべきでしょう。もともと想定外の生命反応が日常的に多数発生することが、傷病という不確実の世界。かなり治ると思ったのが治らなかつたり、絶対に治らないと思ったのが治つたりしていることもある。

しかしながら、現時点では、患者安全を最優先させるにはどのような方法があるは不明です。例えば、以下のような方法はどうでしょうか？

(理念) 患者安全第一 Patient Safety First (PSF)

(目標) みんなで作る、安全で安心して働ける職場

(ロジステック)

- |               |  |
|---------------|--|
| 全職員の安全意識の熟成   | : 日頃の職場教育。危険予知能力の向上。訓練。改善運動。<br>全職員による職場安全パトロール。整理整頓 |
| チーム医療文化の熟成    | : 互いに助け合う職場  |
| 語り合える文化       | : コミュニケーション技術の向上。相談業務                                |
| 人手を介さない安全システム | : 機械化。自動化  |
| 重大事故の調査       | : 医療は高度に専門性が高いので、病理解剖を含む医学調査が基本。第三者評価。広報担当部門の育成      |
| 緊急時対応システムの熟成  | : 救急救命のシミュレーション訓練。危機対応組織の訓練                          |
| 報告を処罰しない制度    | : ミス報告。過誤以外の事故報告                                     |
| 制度の評価・構築      | : 安全経費への適切な補助・支援                                     |
| ネットワーク型安全     | : 院内外のネットワークからの支援・協力                                 |

患者安全第一 Patient Safety First は新しいキーワードですから、みんなでコンテンツを育てていく世界です。